

岩手県沿岸における津波浸水シミュレーション等を公表!

～ 多重防災型まちづくりの推進に向けて ～

河川課

県では、東日本大震災津波を踏まえ、今後の津波対策を検討するにあたって「岩手県津波防災技術専門委員会」(委員長: 堺茂樹岩手大学工学部長)を設置し、津波対策の方向性、津波対策施設の整備目標等について検討を進めるとともに、市町村との意見交換や国との協議等を進めてきたところです。

岩手県沿岸における海岸堤防高さの設定については、平成23年9月26日及び10月20日に公表しましたが、津波浸水シミュレーション結果については、市町村のまちづくり計画への影響等を考慮して県としての公表を控えてきました。

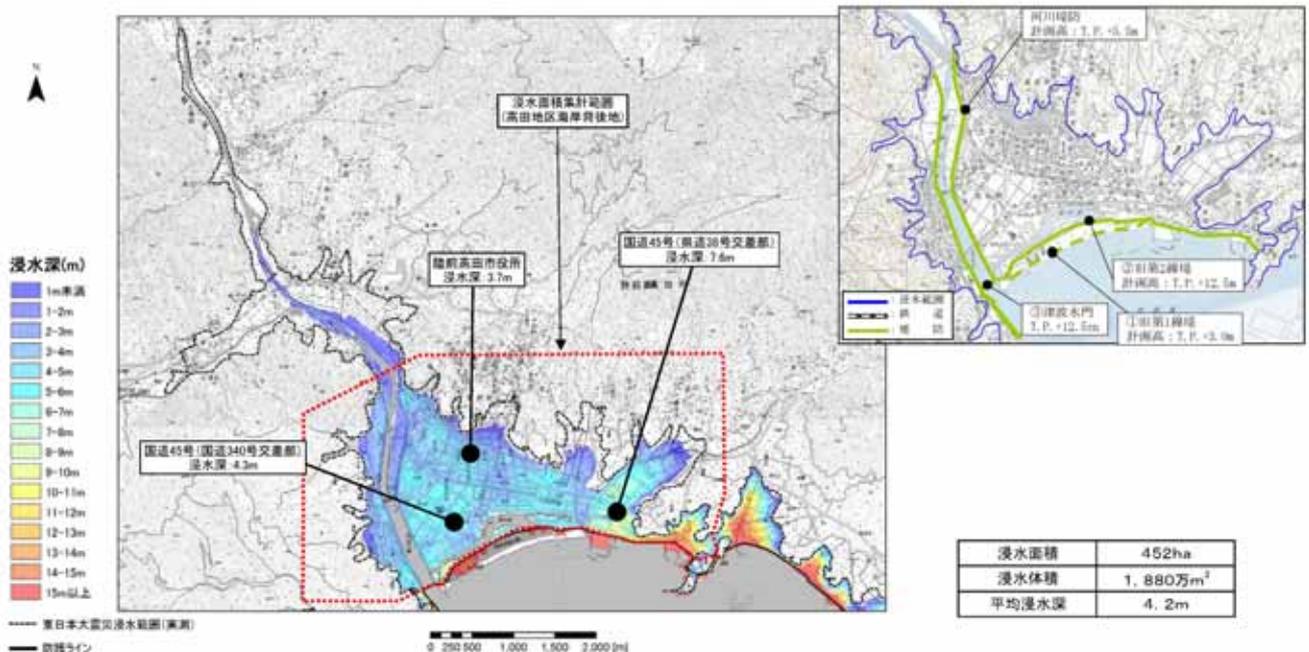
しかし、市町村の復興計画が年内に策定される目途が立ったことから、県では、12月16日に津波浸水シミュレーション結果を公表しました。今回公表したシミュレーション結果は、海岸堤防等の計画や市町村のまちづくりの参考とするため、海岸堤防等の復旧・整備が完了した後、最大クラスの津波が来襲した場合に想定される浸水範囲及び最大浸水深さを示したものです。

なお、「津波防災地域づくりに関する法律」に基づく津波警戒避難体制等の基本となる「津波浸水想定」は県が設定及び公表することとされていますが、今後、国が定める基本方針等が示された後に、詳細を検討していくこととしています。

陸前高田市の例

■計算条件

堤防高さ	T.P. +12.5m 気仙川の津波対策は水門での対応
最大クラスの津波	東日本大震災津波
地盤高さ	東日本大震災津波後の測量データを基に、地震による地盤変位を考慮する
潮位	東日本大震災発生時 H23.3.11 15:15の推定潮位 T.P. -0.44m
海岸堤防等の構造	最大クラスの津波による越流に対して決して壊れない構造ではないが、当シミュレーションでは、越流した場合でも壊れないという条件で計算を行っている。
まちづくりにおける盛土等	考慮しない



岩手県沿岸における津波浸水シミュレーション結果の詳細については、こちらの県土整備部 HP をご覧ください。
<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=4459&of=1&ik=3&pnp=17&pnp=66&pnp=782&pnp=4459&cd=36258>